

元中だより



元吉原中学校HP

富士市立元吉原中学校
学校だより 第5号
令和6年9月20日

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。
令和6年4月18日(木)に、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。この度、本校の調査結果と分析がまとまりましたので皆様に報告いたします。

私たち教職員は、この分析を踏まえ、より良い学習指導ができるよう授業改善に努めてまいります。なお、学力向上には、ご家庭における学習習慣や生活習慣が関係していると言われております。今後も学校と足並みを揃え、ご協力いただきますようお願いいたします。

☆全国学力・学習状況調査とは☆

全国学力・学習状況調査は、文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。また、学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

本調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等が、相互に関係し合いながら育成されるものという学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

☆本校の調査結果ならびに成果と課題☆

国語

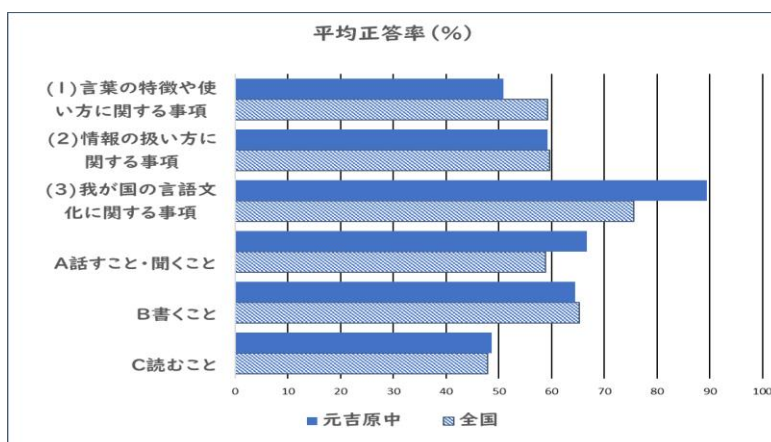
近年注目されている用語「フィルターバブル現象」を盛り込むなど、現代の世相を反映している内容でした。それらを題材にして、話し合い活動や創作活動の取組を通して、語句や構成、自分の意見を作文する問題が多く出されました。

本校生徒は、「A話すこと・聞くこと」の領域で全国よりも上回りました。これは、全校で継続的

に取り組んでいる小グループ学習の良い表れと捉えられます。「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」「話し合いの話題や発言を踏まえ、『これからどのように本を選びたいか』について自分の考えを聞く」という問いに対して、全国正答率と比較して高い結果でした。

「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」問題で、課題が見つかりました。最後の場面を書くことはできていましたが、自分の作文を客観的に分析し、表現した意図を説明する文、「情景を描写することで、期待感が印象的に伝わる。」「倒置法を使ったことで、主人公の心情が喜びとつながっていると強調することができる。」等の文を作ること苦戦していました。表現技法を理解していても、使いこなす状態に到達していないと推察されます。

表現豊かに作文できるよう、表現技法を活用し使いこなす作文力をつけて欲しいと願います。



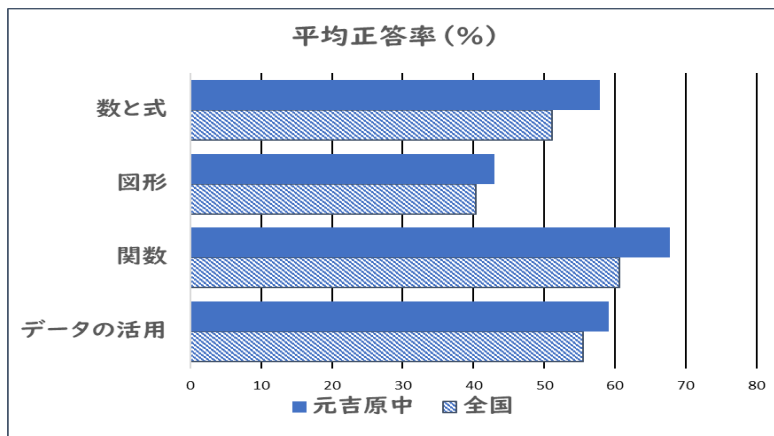
数学

全ての領域で平均正答率が全国を上回りました。

特に「関数」の領域では、全国の正答率が6割に対して、本校は7割近くの正答率をあげました。「知識・技能」の観点を問う問題に対しては、比較的得意な傾向が見られます。しかし、「思考・判断・表現」を問う記述式の問題に対しては、自

分の考えを上手くまとめきれずに、無回答の生徒が多く見られました。この点を克服するために、日々の授業で行う小グループ学習での活動において、それぞれが自分の意見をつくり、表現し合える機会を増やしたいです。

また「図形」の分野において、図形を見て、問題の条件を変えたときに、どのように答えが変化するかを考える問題では、自分の中で変更点による変化がはっきりと理解できないために、誤答する傾向がありました。問題文を自分が理解するために一度、絵や表、図等に自分自身で表して、自分なりに具体化させて判断する力をこれからつけたいです。



《学習状況調査(生徒質問紙)から》

令和6年度	全国	元吉原中
平日に、授業以外で1日に2時間以上ICT機器を勉強に使っている。	6.10%	5.20%
平日に、1日に2時間以上テレビゲームをする。	48.90%	52.7%
平日に、1日に2時間以上ICT機器でSNSや動画を視聴する。	55.90%	73.7%

左の表は、ICT機器に関係した質問の一部を、全国の値と比較したものです。

タブレットやスマートフォンなどのICT機器を、1日2時間以上勉強に使っている生徒が5.2%と全国よりもやや低い値でした。その反

面、2時間以上テレビゲームを行ったり、SNSや動画を視聴したりしている生徒が、その10倍以上いました。その中で4時間以上行う生徒は、それぞれ23.7%でした。

ICT機器は多機能で、様々な場面で活躍するツールです。自分にとって有益かつ有効な使い方を見つけていけるよう、じっくりと寄り添っていきたいです。

《これから》

「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が100%でした。さらに「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が94.7%で、それらの結果から相手を大切にし、思い遣れる元吉原中生像がみえました。

しかし、「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が42.1%であり、66.3%の全国を大きく下回った結果に驚きました。7月の前期学校評価アンケートでは65%に変化したという点で、日々の学習活動から自身の将来像を徐々に構築している最中だと推測します。力強く「もっています」と宣言できるよう、教職員全員で支えていきたいです。

今後も、本校の教育活動へのご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。